

地域全体が患者を診る ひとつの病院

長野県の南部に位置する伊那市は、南アルプスと中央アルプスに挟まれた谷間のまち。「天下第一の桜」と称される高遠城址公園の「タカトオコヒガンザクラ」や辛味大根に味噌、葱を入れて食べる「高遠そば」が知られている。取材に訪れた5月末は、高遠しんわの丘ローズガーデンで色とりどりのバラが見ごろを迎えようとしている時期だった。



バラの見頃を迎える高遠しんわの丘ローズガーデン

伊那市街地から天竜川を渡り、旧高遠町を目指す。二城下通りを抜け、山間を進むと見えてくる「伊那市国保長藤診療所」の看板。今回の取材先だ。少し高台にあるため、見晴らしがよく、周囲には田んぼが広がり、キジのつがいが目目の前を歩く光景に自然の豊かさを感じた。

診療所へ入ると、はじめに太い柱と梁が目に入る。木材がふんだんに使われ、横の待合室には掘りこたつもあるなど、患者さんの憩いの場になっている。



待合室は患者さんの憩いの場

伊那市国保長藤診療所 所長
宮澤 隆志 医師



地域医療最前線

伊那市国保
長藤診療所



診療所の周りには桜の名所

いると、帰りの患者さんが事務員の宮田さんと楽しそうに次の予定を確認している姿が印象的だった。

今回は所長の宮澤隆志先生が気に入っていると診察室にて、先生とスタッフの方々からお話を伺った。

診療所と病院の二刀流

岡谷市の生まれで信州大学の医局に所属している宮澤先生は、これまで県内外さまざまな病院で多くの診療を行ってきた。整形外科を専門としており、伊那市国保長藤診療所に

は平成31年4月より着任された。前任の鈴木貴民先生が20年余り勤めて定年退職となったことをきっかけに後任を探していたところ、宮澤先生に来ていただくことが決まったという。

先生は週2回診療を行っており、それ以外は市街地の病院に勤めている。日頃の診療では、「入院と手術はできないが、山の中でも病院と同じレベルの医療を行っている」と語る。手術が必要となる場合には、自身の勤める病院で行うほか、信州大学の医局員でもあるため、そこでの連携を生かし、患者さんを適切な病院に紹介している。

事前の問診、丁寧な説明が重要

先生は、スタッフが非常に優秀で、患者さんの心を分かってくれていると話す。問診の際にそれぞれスタッフが患者さんに関心をもって話を聞いてくれるから、診察前に生活背景から性格、前回の診療からの変化などの情報が分かるそうだ。絵に描いたような理想の地域医療ができていて、私はそこにたまたま入っただけ、という。

これまで多くの病院での勤務を経験したが、スタッフはそれぞれの業務で忙しく、そこまでやる余裕がない。ここでは、こちらから指示したわけではないのに、自然に連携できているというのが本当にすごいと先生は意気込んで話してくれた。また、スタッフの方からは、問診で話を聞いている時間がすごく大事。体調以外にも地域のことや農業のことなど、色々な話を聞くことが重要だとの話があった。

スタッフの方は、これまではずっと内科で、整形外科の経験はなかったが、先生がスタッフや患者さんに病気について優しく丁寧に説明してくれるため、勉強になると話す。高齢の方が多いため、積極的な治療を望まなくてもいいけど、どうしたら薬に生活できるかなど、患者さんの生活に合わせて治療を提案してもらえるため、一緒に考えて治療を選択できるように。

こうした先生の人柄から、患者さんも話しやすいといって、病気以外の話もたくさんしていきそう。病院だとなかなか時間がなくて話ができないが、診療所になると問診や診察のときに話ができるから、話を聞

いてもらうだけですごく楽になり、安心できるという患者さんも多いという。

先生はだいぶ慣れたと話す。患者さんが夕方に大量の山菜を持ってきてくれるなど、こんなところがあるのかと思って驚いたと以前を振り返った。

地域で患者を診る

診療所は伊那市の施設となっており、診療所のスタッフも診療日以外には市役所でそれぞれの業務にあたっている。そのため、市の保健師さんとも連携がとりやすく、フォローしてもらいやすい。介護にもつなげやすく、困ることはほとんどないと語る。

また、先生はほぼ100%整形外科の診療をしているが、この地域に内科の先生がいるため、そちらとも連携を取り、お互いの専門を診ながら必要があれば紹介しあっている。また、薬局とも何かあるとすぐに連絡をとって、処方されている薬のことや患者さんがこんなことを言っていたなど、情報をうまく共有できているそうだ。

地域で患者を診ることが自然にで



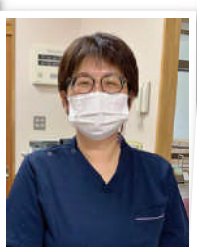
旧高遠町のご城下通り 高遠そばのお店が多くある

お互いを尊重している 理想的な環境

先生は「もともとスタッフが優秀で、私はたまたまそこに人っただけ」と話していたが、インタビューが終了し、先生が退室されたあと、診療所のスタッフの方に話を聞くと、理



ベテラン看護師の伊藤さん



患者さんを和ませる
事務員の荒田さん



1年目の看護師の城村さん

方だと話すように、取材の中でも「皆さんの足手まといにならないようにして、皆さんのおかげで仕事ができています」と控えめに話されていたが、このあと何った診療所でのエピソードからは迫力を感じた。先生は「私が生まれる前からずっとこの地域で働いていて、今も現役なのは本当にすごい。こういう方を取材しないのもったいない」と語っていた。酒井さんは診療所ができた昭和31年当時は馬で往診していたという驚きのエピソードをはじめ、昔は救急車が来ないから、夜中でも患者が来れば診てあげたり、往診も多く、夜は23時頃まで訪問し朝方も訪問していたこと、また、近隣の三義という地域に診療所があったが、火事にあい消失してしまっただけ、患者さんをマイクロバスで週2回こちらの診療所まで運んできたことなどをお話してくれました。

そして、その当時の先生方は内科の診察以外にも、胃がんの手術や帝王切開、耳や眼の診療まで多岐にわたり行っていたそう。宮澤先生も今は専門だけできればいい時代だけど、昔はそんなことはなかった、当時の先生方はすごいと話した。

い、診療所に来ることができるようになったことで、交通の便が改善されたようだ。

スタッフの方は、患者さんはバス停まで歩くのも大変なため、すごくいいと話されていた。

診療所の レジエントが語る

この診療所には先生を含め皆さんが「レジエント」と呼ぶ方がいる。80歳になる現在も現役の看護師として働いており、60年もの間この地域を支えている酒井さんのことだ。この方は診療所に来る患者さんが子供だったころから知っていて、家族構成や親戚まで把握しているため、患者さんの具合が悪くなったときには誰に連絡したらいいかなどがすぐわかるそうだ。



「レジエント」看護師の酒井さん

スタッフの方々がシャイで謙虚な

A I が活躍

「ぐるっとタクシー」

これまで、バスの本数が少なく不便な状態だったが、いまは伊那市で「ぐるっとタクシー」というものが運行されている。事前登録をした人が乗車予約をするとA I（人工知能）が自動で経路などを計算し、自宅から目的地までドアツードアで効率よく運行するという仕組み。患者さんは自宅の前まで迎えるに来てもら

想的な環境が見えてきた。

診療所に来て1年目の城村さんに聞くと、「長藤診療所で働く前まで何十年もブランクがあったが、皆さん本当に温かく、優しく教えてくれる。地域のことわからないので、患者さんから教わることも多い」と話す。そして、先生が患者さんに本当に優しく穏やかに話されるので、自分たちも穏やかに接することができるという。また、他のスタッフの方も先生のことを本当に信頼しているのが分かるため、自身も先生のことをすごく信頼でき、すごくいい環境だと笑顔で語った。

先生は診療所のスタッフを信頼し、診療所のスタッフは先生を信頼している。そして、患者さんの心を理解し、地域と連携を取りながら患者さんの生活全体を支える診療所は、理想的な地域医療の現場だと感じた。

地域医療は新人です

先生は診察室がとても気に入っているそうだ。カーテンを開けると窓ガラスいっぱい桜の木を見ることがができる。着任した年には、満開の桜に雪が積もる光景を目の当たりに



診察室から見える満開の桜に積もる雪

し、最高だったと振り返る。「こんなにすごい診察室はない」と語り、毎年ここから桜を見ているが飽きないし、和むそうだ。物語のセットみただけだと話し、マスク越しではあるが、宮澤先生の満面の笑みが伝わってきた。

取材の初めに先生は「地域医療は新人です」と話されたが、取材を進



診療所の皆さん

めていく中で、診療所のスタッフの皆さんと協力し、地域と連携しながら患者さんの生活全体を支え、ご活躍する先生の姿はとも新人とは思えない。病院ではできないことができていて、本当に楽しいと話す先生。病院の医療と診療所での地域医療と二刀流の活躍を続ける先生の今後に目が離せない。



伊那市国保長藤診療所 前所長 鈴木貴民 医師

鈴木先生は平成9年6月から平成31年3月まで勤務され定年退職し、現在は毎週木曜日午前中のみ診察を行っている。内科が専門で生活習慣病を主に診療しており、当時は患者さんのほとんどが80歳以上だった。また、地域の2つの学校医もされており、小学校の内科健診にも行っていた。

往診については、多いときは一週間に10人、一カ月で20人ほど毎週定期的に往診を行い、自宅での看取りもしていた。高遠町の人口減少もあり、往診の患者さんも減少したことから、往診は地域の内科の先生方へお願いし、現在は病状の安定されている方を診察している。

酒井さんによると、鈴木先生が開設当初から数えて8人目の先生となり、これまでの先生の中で一番長く勤務いただいた先生だとのこと。今回はお会いできなかったが、鈴木先生の地域医療へのご活躍も伺いたかった。